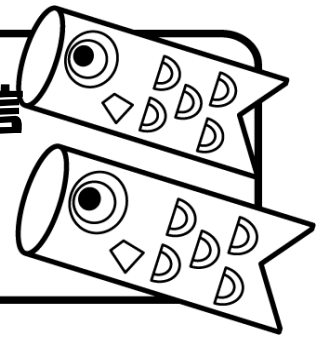


青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和4年度 第198号 5月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。



令和4年度 青木村保育園の保育目標

園長 成沢 亮子

青木村保育園長の成沢亮子と申します。本年度も引き続きよろしくお願いいたします。

令和4年度は16名の新入園児を迎え、早いものでひと月が経とうとしています。

本年度の総人数は103名。未満児は30名からのスタートとなり、途中入所児を含むと最終は39名になる予定です。近年、夫婦共働きの生活スタイルが定着し未満児保育のニーズが高まっています。未満児における環境の整備が重要視されています。青木村保育園でもニーズに応じた対応を考え、子どもたちにとって過ごしやすい環境づくりを整えていきたいと思いを。



また、世の中ではコロナ第7波の突入かと騒がれる中、入園式を終え新年度がスタートしました。第6波の収束を見ることなく迎えた次の波に、ややため息交じりのスタートとなりましたが、子どもたちの姿に笑顔を取り戻し、コロナとの共存を掲げ新たに歩みだす事といたしました。

さて、青木村保育園の目標は「笑顔あふれる保育園～遊びに挑戦する子どもたち～」です。

1. 外遊びを中心にした遊び込みにより、五感をフルに使って自分で考える力をつける。

(～意欲～)

2. 自然豊かな青木村の地域資源をフルに活用し、信州型自然保育への取り組みを行なう。

(～やり抜く力～)

3. 地域の皆様、ご家庭、保育者、すべての人とのつながりを持つ中で子どもたちと向き合う関りを大切にする。(～他者への思いやり～)

4. 支援体制を整え一人ひとりの成長発達を見守る。(～自己肯定感～)

5. 保小中一貫教育を通して交流を行いスムーズな就学移行を目指す。(～保小の連携～)



上記の5本の柱に向けて本年度課題とすることは「コロナと共存する保育」です。感染力の強いコロナをただ恐れているだけでは新しい保育は見いだせないでしょう。子どもたちの安心、安全を確保して保育の原点である人と人とが関われる保育を目指し、2年にわたるコロナの特徴を念頭

に置きながら「手洗い」「消毒」「換気」「食事の方法」「人との距離を保つ」といった基本的な感染予防対策を講じながら行事の見直しも行っていきたいと思います。



令和4年度 青木小学校学校運営の重点

～笑顔あふれる学校～

校長 中上 敬介

令和4年度は、28名の新1年生を迎え、スタートいたしました。学校教育目標『あかるい子 かしこい子 たくましい子』の具現に向けて、今年度も『つながる』をキーワードに、取り組んでいきます。



○『あかるい子』＝『人を大切にする力』



- ①相手を見て、あいさつをしよう。
- ②友だちの良いところを見つけて、ほめよう。
- ③困っている人を助けよう。
- ①自分で考えて、自分の意見を持ち、友だちに伝えよう。
- ②友だちの考えを聞いて、一緒に考え合おう。
- ③「分からないこと」や「あれ？」と思うことは、そのままにしない。



○『たくましい子』＝『チャレンジする力』

- ①間違えても大丈夫。やり直せばいいんだよ。
- ②うまくいかなくても大丈夫。ちがうやり方を見つけよう。
- ③続けていれば、できるようになるよ。



子どもたちが、楽しく充実した学校生活を送るためには、友だちとのつながり、先生とのつながり、お家の方や地域の方とのつながりが欠かせません。

学校が、安全安心な場所であると同時に、安全安心な人間関係、つながりがあることが重要です。

そこが土台となって、互いに思いやる空気が生まれ、自分で自分の学びを切り開いていく豊かな力を育ていけると考えています。

子どもたちの健やかな成長には、ご家庭や地域の皆様との『協働』が必要です。子どもたちの様子でいいなと思う姿や、向上した姿が見られましたら、共に子どもたちを認め励ましていただけたらと思います。また、気にかかる点がありましたら、どんな些細なことでも学校へお声がけください。

ご家庭と地域の皆様と手を携え、子どもたちの教育にひたむきに取り組んでまいりたいと思います。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。



令和4年度 青木中学校教育活動の重点

校長 後藤 真道

青木中学校長の後藤真道と申します。青木中学校3年目になりますが、引き続きよろしくお願いいいたします。

31名の新1年生を迎え、全校生徒108名で令和4年度がスタートしました。今年度も引き続きコロナ禍にあります。様々な学校行事については、できないことを理由にするのではなく、できる道を探っていきたいと思っています。



アイリスセミナーについては、残念ながら今年度も中止とありますが、各学年で故郷青木村について学ぶ時間を「総合的な学習の時間」において位置づけたいと考えております。また、伝統芸能や義民太鼓については、感染対策を講じながら取り組んでいきます。オーストラリア姉妹校交流については、昨年度より英語の授業を通してビデオレターやインターネット等を用いた交流について取り組んでいます。

以下、今年度の教育活動の重点を中心に述べさせていただきます。

(1) 今、本校で「あたり前」になっていることを続けて「青木ブランド・青木プライド」を守っていく

学校教育目標「強い意志・思いやり・郷土愛」を体現する生徒の姿をイメージし、何年もかけて職員も生徒も右の5つの姿を目指しています。継続することが大変難しいことであるからこそ、これらが特別（青木ブランド）であり、学校への誇り（青木プライド）であります。あたり前のこと、日常のこと、小さなことに真心を込めて行っていくこと。「分かりたい」「できるようになりたい」と願う子どもには必ず支援することがあたり前な学校であり続けることを目指します。

5つの実現したい姿

- ① 学び合い
- ② 伝えよう、心の挨拶
- ③ 心を磨く清掃
- ④ 心に響く歌声
- ⑤ 心を耕す読書



(2) 主体的な生徒の育成を目指します

- ① 教師自身が当事者意識をもって指導にあたり、当事者意識をもった生徒の育成を目指します。
- ② 成功体験だけではなく、「トライ&エラー」を繰り返し、教師自身も生徒とともに失敗体験を大切にしていきます。「安心して失敗体験」ができる青木中学校でありたいと願っています。
- ③ LGBTQなども含め、人権教育の充実を図り、多様性を受け入れ、意見の相違が起きた際には、折り合いをつけ、対話によって解決する機会を大切にします。
- ④ 先を見通して考える力をつけていくために、各教科のオリエンテーションを大切に、「スケジューラー」の活用を図りながら、自律した生徒の育成を目指します。
- ⑤ GIGAスクール構想による一人1台タブレットを生かした学びを、デジタル学習教材「eライブラリ」も活用しながら進めます。また、オンライン授業についても昨年度と同様に柔軟に対応していきます。



⑥生徒会活動の充実

- ・生徒が中心となり、今後の生徒数減も視野に入れながら、一つひとつの生徒会活動を改めて見直し、より青木中学校の実態にあう活動を検討しています。



(3) インクルーシブ教育の実践

「青木中スタンダード」授業過程の確立を目指し、日常の授業から、教室環境、授業のルーティン(展開、まとめ方や課題の提示方法等)のユニバーサルデザイン化を図っていきます。また、特別支援教育に中心的に関わる先生方を今年から新たに1つの学年として位置づけ、1～3年生全ての学年に柔軟に関わることができるようにします。

- ・授業のはじめに本時の見通し(内容、時間)を共有できるようにします。
- ・「全体・小集団・個別」各追究における学び合いを位置付け、自分の言葉で表現できることを目指します。
- ・自他の学びのよさを明確に自覚するための振り返りを大切にします。
- ・教科によっては、少人数での共同学習やTTを機能させます。授業の中での少人数指導で結果を出せなかった生徒には、個別指導を位置づけます。
- ・一人ひとりの生徒にあった学び方ができるように授業を構築し、よりよい支援にするためにも、各教科のアプローチを共有します。(補足:TT→チームティーチング)

(4) 非違行為根絶からマイナスへ

「非違行為ゼロ」は当然、一歩進んで、青木中学校では、非違行為が起きるはずがないという信頼感を地域や保護者に与えることができるように取り組んで参ります。

我々職員は、生徒の皆さんの成長と共にありたいと切に願います。生徒の皆さんにとって必要なことを見極めながら、柔軟な学校運営に努めてまいります。ご心配なことがありましたら何とぞご相談ください。中学校職員一同、精一杯頑張ります。今年度も保護者、地域の方々、教育委員会、村当局のご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



今年も新年度が始まり、気持ちも新たにあおきっ子たちをみんなで見守り、保育園・小中学校を応援していきましょう。



今月号と一緒に「2022年度青木村の教育」「あおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。